

大阪科学賞、2教授に授与



大阪科学賞運営委員会は21日、今年度の大阪科学賞を木本恒暢(つねのぶ)・京都大工学研究科教授(47)と写真(46)と山下俊英・大阪大医学系研究科教授(46)に授与すると発表した。

優れた成果を上げた関西の若手研究者に贈られる賞で今回が29回目。

木本教授は、電力の損失が少ない新しい半導体材料の炭化ケイ素を研究し、高純度・高品質な結晶

を作り出すことに成功。半導体の小型化や従来に比べて桁違いの省エネルギー化に貢献した。山下教授は、脳や脊椎(せきつい)、視神経などの中枢神経が損傷すると回復が難しい理由を研究。再生を抑制する分子レベルの仕組みを世界に先駆けて解明し、中枢神経の病気を改善する薬の開発にも取り組み、有望な再生治療薬として国内外で注目を集めている。

「大阪科学賞」に京大・阪大教授
大阪府と大阪市、大阪科学技術センターは21日、関西の優れた研究者を表彰する「大阪科学賞」の2011年度の受賞者に、京都大学の木本恒暢教授(47)と、大阪大学の山下俊英教授(47)を選んだ。11月2日に大阪市内で表彰式を開き、それぞれに賞金150万円を贈る。

毎日朝刊

H23. 9. 22 (木)

大阪科学賞に2氏

第29回大阪科学賞(大阪府、大阪市、大阪科学技術センター主催)に21日、京都大工学研究科の木本恒暢教授(47)と、大阪大医学系研究科の山下俊英教授(47)が選ばれた。木本氏は、省電力につながる炭化ケイ素を使った半導体の作製手法を確立。山下氏は、脊髄など中枢神経が損傷した時に再生を妨げる仕組みを明らかにした。

毎日朝刊

H23

9/22 (木)

読売朝刊

H23

9.22 (木)



山下氏 大阪科学賞 木本氏



優れた業績をあげた研究者に贈る「大阪科学賞」(大阪府、大阪市、大阪科学技術センター主催)の今年度の受賞者が21日発表され、京都大大学院工学研究科の木本恒暢教授(47)と写真(46)と、大阪大大学院医学研究科の山下俊英教授(46)に授与された。

木本氏は新しい半導体材料の炭化ケイ素の研究に取り組み、電力変換に用いる半導体デバイスを開発。変電機機器の省エネに貢献

脳・脊髄疾患の薬剤研究

換の際に起きる電力ロスを抑え、電気機器の省エネ・小型化に貢献した。

山下氏は中枢神経が損なわれた後、再生を妨げる分子機構を解明。脳や脊髄の疾患に伴う神経症状を回復する薬剤の研究を行っており、臨床応用が期待できると評価された。

11月2日に大阪市内の大阪科学技術センターで表彰式と記念講演が行われる。

サンケイ朝刊

H23

9/22 (木)

大阪科学賞に木本氏と山下氏

大阪府と大阪市、大阪科学技術センターは21日、第29回大阪科学賞を、京都大大学院工学研究科の木本恒暢教授(47)と大阪大大学院医学系研究科の山下俊英教授(47)に贈ると発表した。50歳以下の研究者が対象で、賞金150万円が贈られる。

木本氏は、高純度のシリコンカーバイド(炭化ケイ素)の結晶やダイオードを開発。従来のシリコン(ケイ素)から大幅な省エネに成功し、実用化した。

山下氏は、脳や脊髄(せきすい)などの中枢神経がけがなどで傷ついたとき、治ろうとするのをじまますたんぱく質や受容体を特定し、仕組みを解明した。

朝日新聞朝刊

H23

9.22 (木)